

環境への取組計画

◆札幌市の環境計画

札幌市気候変動対策行動計画(2021年3月策定)

持続可能な脱炭素社会の構築に向けて、気候変動対策(緩和策・適応策)を推進するため、2021年3月に策定しました。

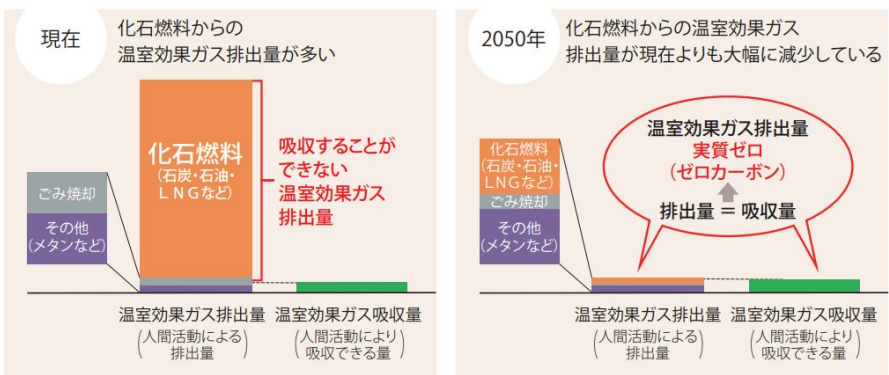
2050年には温室効果ガス排出量を実質ゼロとする“ゼロカーボン”を目標に掲げ、市民・事業者編と市役所編それぞれにおいて、2030年の目標とその達成に向けた取組を示しています。

＜市民・事業者編＞
2030年目標
温室効果ガス排出量を
2016年比で**55%**削減

＜市役所編＞
2030年目標
温室効果ガス排出量を
2016年比で**60%**削減

2050年目標
温室効果ガス排出量を**実質ゼロ**とする(ゼロカーボン)

※市域全体で人為的な排出量と吸収量との均衡を達成することです。



環境マネジメントシステム(EMS=Environmental Management System)

環境マネジメントシステムとは、組織や事業者が事業活動の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための仕組みです。

札幌市では、2001年度からEMSの運用を開始し、2011年度からは「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」や「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律(省エネ法)」に対応し、札幌市の実状に合わせた効果的・効率的な温暖化対策の推進を図るために、独自のEMS(札幌市EMS)を構築し、運用しています。



◆水道局の環境計画

第2次札幌水道ビジョン(2025年3月策定)

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの基本的な方向性に沿って策定する水道についての個別計画で、計画期間は2025年度から2034年度までの10年間です。施策の基本方向の一つとして「環境負荷低減の推進」を掲げており、脱炭素社会の実現を目指す札幌市の水道事業者として、更なる省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入など、環境負荷の低減に取り組んでいきます。



持続可能な開発目標(SDGs)と水道局の環境施策

札幌市は、国連で採択された持続可能な開発目標の達成に向けた優れた取組の提案が認められ、2018年内閣府より「SDGs未来都市」として選定されています。水源保全をはじめとする水道局の取組もこのSDGsの実現につながるものが多いことから、SDGsの視点を持って水道局の施策展開を進めていきます。

SDGsの17のゴール(目標)

